

## 令和7年度 学校総合評価

富山県立呉羽高等学校

### ◎ 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「調和のとれた豊かな人間性を有し、力強く道を切り開く社会に有為な人物」を育成することを目指して教育活動を推進している。今年度は、具体的方策として6項目12の達成目標を定めて取り組み、概ね目標は達成した。一方で、学習活動等で課題も残った。

「学習活動」については、互見授業の取り組みが学習指導の創意工夫に繋がると学校評議員に評価されたが、生徒の学習への主体的な取り組みの指標となる家庭学習時間の確保は目標を達成できなかった。今後、互見授業や研修を活用し効果的な指導法を工夫するとともに、生徒にタイムマネジメント意識を持たせ、時間の使い方を考え実行させることによって学習の効果を高めていきたい。

「生徒指導」については、生徒会校紀委員会の自主的な取り組み等もあり、「挨拶」や「服装」では十分目標を達成した。スマートフォンの使用時間や利用方法に関する意識の向上についても、ほぼ目標を達成した。今後は、スマートフォンの使用について、生徒自らマナーを守り使用することができるよう、生徒会校紀委員会が中心となり取り組む必要がある。

「進路指導」については、3年間を見通した計画的な進路指導によって目標を達成した。学校評議員からは、進路指導について、80%以上の生徒が肯定的な回答をしていると評価された。今後は、大学招聘事業等、生徒の要望にできるだけ沿うよう関係機関と連絡を密にする必要がある。また、個人面談については、時期や内容を十分検討し、職員間の共通理解を図ることによって、生徒の内発的動機付けを促し、より積極的な進路指導を目指したい。

「特別活動」については、学校行事への取り組みにおいて、生徒は意欲的に参加し充実している結果となった。ホームルーム役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒が9割を超え、学校行事と直結する委員会活動の充実度が高い傾向にある。今後は、ホームルーム活動も活性化させたい。

「図書館活動」については、定期的な情報発信により図書館の広報活動に取り組むことができた。今後は、教科や探究的な活動に資する図書館機能の充実を図りたい。

「PTA活動」は、学校とPTAとが連携しながら芸術祭等の行事を充実した活動にすることができ、参加者の満足度も高かった。

「校内美化」は、学習環境を快適に保つために美化委員を中心に啓発活動を行い、重点項目に関する評価活動を取り入れた大清掃を実施した。

### ◎ 次年度へ向けての課題と方策

生徒が主体的に学び、他者と協働しながら心身とも健やかに成長しながら学校生活を送り、高い志を持って主体的に進路選択できるよう支援していかなければならない。国内外の社会情勢が変化し教育に寄せる期待が高まるなか、本校においては、個々の生徒の特性に適切に対応し、より一層の伸長を図るよう適切な教育や指導を実践し、教育目標を実現していかなければならない。

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動(学習指導の充実)	
重点課題	家庭学習の充実と教科指導の充実	
現 状	<p>①本校生徒の進路目標達成のためには、日々の授業を大切に、生徒が計画性をもって生活時間を調整しながら学習に取り組む必要があるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていないのが実状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用し、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、ICTの効果的な利用も含め、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。</p>	
達成目標	<p>①生徒の学習時間</p> <p>A 平日(前期) 全学年2時間以上の割合</p> <p>B 平日(後期)</p> <p>1・2年2時間以上、3年3時間以上の割合</p> <p>C 土・日・祝日(前期) 全学年4時間以上の割合</p> <p>D 土・日・祝日(後期) 全学年4時間以上の割合</p> <p>※学習実態調査・前期5月・後期10月実施</p>	<p>②互見授業に積極的に参加し、教科部会等で情報交換・意見交換を行う。</p>
	<p>① A 70%以上 B 70%以上 C 50%以上</p> <p>D 1・2年 50%以上 3年 70%以上</p>	<p>②互見授業に年間2回以上参加</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での生活実態を記録させ、予習・授業・復習のサイクルを確立するための時間の使い方を、生徒自身に考えさせる。</li> <li>授業や考査・レポート等により学習状況や学習到達度を把握し、適切な課題を設定して生徒の意欲を引き出す。</li> <li>個人面接を重視し、生徒一人ひとりに合った学習方法を工夫させるとともに学習時間増加推進に取り組ませ、進路目標の達成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して実施する。</li> <li>互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など、授業改善のための校内研修を実施する。</li> <li>ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、目的に合った効果的な利用法の研究を進める。</li> </ul>
達成度	<p>① A 1年 60.4% 2年 42.2% 3年 66.7%</p> <p>B 1年 43.6% 2年 38.9% 3年 69.8%</p> <p>C 1年 46.1% 2年 24.3% 3年 52.1%</p> <p>D 1年 32.7% 2年 18.5% 3年 66.5%</p>	<p>② 77.3% (平均見学回数 5.5回)</p>
具体的な取組状況	<p>①面接で進路目標を確認しながら質問教室や各教科のコンクール、集中学習会等を行い、学力向上、学習意欲の喚起に努めた。</p>	<p>②期間中の自由な見学を促した。各教科で、授業改善のための教科部会も実施し、授業の工夫について検討した。</p>
評 価	<p>① C</p> <p>3年はほぼ目標を達成した。1・2年は前期5月から後期10月の学習時間減少が目立った。</p>	<p>② B</p> <p>参加回数が増加した。他教科の見学も増加傾向がみられる。ICT活用等、自らの授業にいかせるものを取り入れていきたい。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、限られた時間の中でいかに学習の質を高め、生徒が主体的に取り組むことができるか更なる検討が必要である。</li> <li>互見授業は先生方の学習指導の創意工夫がなされ、それが生徒の学習への理解力に結びついてほしい。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムマネジメントの意識を持たせ、時間の使い方を考えさせる。</li> <li>互見授業や研修を活用し、効果的な指導法を工夫する。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導）																			
重点課題	①「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ②スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。																			
現状	① ここ数年継続して、「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつよくなっていると感じている。また制服については、5月～10月の期間を生徒が各自の体調や気温にあわせて冬服・合服・夏服を選んで着用する「制服選択着用期間」とし、生徒の自主性を育む指導を行っている。 ② スマートフォン等の利用の仕方については講話・集会等で指導しているが、XやLINEなどのコミュニケーションツールや多様なアプリの使用により、スマートフォンを手放せない生徒が多い。日頃から、スマートフォンの使用時間や適切な利用の仕方について考えさせる指導が必要になってきている。																			
達成目標	① 「挨拶」、「服装」に関する日常の取り組み 〈自己評価「いつもきちんとできる」、「だいたいいつもできる」の割合〉	② スマートフォン・携帯電話の使用時間や利用方法に関する意識の向上 〈自己評価「改善している」、「改善しようと思っている」の割合〉																		
	・【挨拶】「授業」80%以上、「校内」80%以上 ・【服装】85%以上	75%以上																		
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校紀委員会の活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。</li> <li>・朝の生徒玄関での挨拶や、学校全体で行う学期はじめの「マナーアップ週間」での声かけなどを通し、「挨拶」や「服装」への継続的な指導を行う。</li> <li>・各学期に服装指導を実施することで、生徒自身が身だしなみについて考える機会を持たせるとともに、落ち着いた学習環境を維持することに努める。</li> <li>・必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部と学年が協力し、集会等で指導を行う。また、スマートフォンの使用状況について調査を行い、使用状況を把握するとともに生徒の自覚を促す。また、個別面談においても学習状況と合わせスマートフォンの使用状況について確認し、自律的態度の育成に努める。</li> <li>・1年生を対象に「ネットトラブル防止教室」を実施する。様々なトラブルの具体的事例やその対処法について学ぶことにより、スマートフォンやPCの適切な利用の仕方について理解を深める機会とする。また、HRの時間を活用し、スマートフォン等の使用について話し合い活動を行う。</li> <li>・教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。</li> </ul>																		
達成度	<table border="1"> <tr> <td>挨拶の自己評価</td> <td>1学期</td> <td>2学期</td> </tr> <tr> <td>・授業</td> <td>88%</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>・校内</td> <td>87%</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>服装の自己評価</td> <td>96%</td> <td>94%</td> </tr> </table>	挨拶の自己評価	1学期	2学期	・授業	88%	83%	・校内	87%	87%	服装の自己評価	96%	94%	<table border="1"> <tr> <td>スマートフォン等に関する自己評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>80%</td> </tr> </table>	スマートフォン等に関する自己評価		1学期	80%	2学期	80%
挨拶の自己評価	1学期	2学期																		
・授業	88%	83%																		
・校内	87%	87%																		
服装の自己評価	96%	94%																		
スマートフォン等に関する自己評価																				
1学期	80%																			
2学期	80%																			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期始めの1週間を「挨拶・マナーアップ週間」とし、全教職員で指導にあたり、9月には校紀委員会が「挨拶・マナーアップ週間」に合わせ、挨拶運動を自ら企画・実施した。また、6月の「さわやか運動」期間中には、校紀委員と教職員、保護者が協力して挨拶運動を行った。</li> <li>・各教室内に制服の着こなしパターンを明示し、共通理解を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会や学年集会で、スマートフォン使用ルールについて確認し、節度ある使用を心がけるよう指導した。</li> <li>・1学年は、外部講師による「ネットトラブル防止教室」を実施するとともに、HR活動で「スマートフォンとの付き合い方」について話し合った。</li> <li>・生徒のスマートフォン使用状況について、フォームを活用し、調査した。実態を把握するとともに、生徒自身が使用時間・方法の改善について振り返る機会にもなった。</li> </ul>																		
評価	① A：挨拶・服装ともに目標値を上回った。 ② B：スマートフォン1日平均2時間以上使用の比率は昨年度より各学年3%程下がり、生徒の自己評価も全体では目標値を上回った。																			
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「挨拶・マナーアップ週間」などを定期的に行うことで、生徒がその意味や意義を知り、自主性を持ってできる生徒が増えると良い取り組みになる。</li> <li>・スマートフォンの使用について、「使用を控える、制限する」から「学習や自己研鑽のためにいかに使いこなすか」という活動能力を育てる方向に移行してほしい。</li> </ul>																			
次年度に向けての課題	身だしなみやスマートフォンの使用について、校紀委員会を中心にして生徒が主体的に考えられるよう工夫していく必要がある。																			

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標が漠然としているために、受動的な学習に終始する生徒が多い。</li> <li>・自己の能力や適性を的確に評価しようとする意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら進路目標を設定し、その実現に向けて努力していけるよう、継続的に支援していく方策を工夫する必要がある。</li> <li>・目標の設定や実現のための方策を示し、学期や学年の進行とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築し、教員間で共有していく必要がある。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年：文理選択・科目選択を、十分検討した上で決めることができる。</li> <li>・第2学年：具体的な進路目標を、十分検討した上で定めることができる。</li> <li>・第3学年：受験計画を、十分検討した上で立てることができる。</li> </ul>
	1年生：80%以上      2年生：80%以上      3年生：80%以上
方策	<p>○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり進路志望の実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年…生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究や興味関心に応じた探究活動を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。</li> <li>・第2学年…大学見学等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた具体的な進路目標が掲げられるよう指導する。「大学招請講義」では興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。</li> <li>・第3学年…学年集会や外部講師による進路講演会等を開催し、進路志望実現のための具体的な方策や進路に関する情報を的確に示し、意欲を高めさせる。ゴールを見据えた長期・中期・短期の学習計画を作成させ、その進捗状況を検証し、学力を最大限に伸ばさせる。</li> </ul> <p>○個人面接やホームルーム等を通して、学習習慣や生活習慣の見直しをさせるとともに、早期に志望校を明確化できるようオープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。</p> <p>○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削・小論文・面接）に活かす。</p> <p>○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。</p>
達成度	<p>《達成目標アンケート（1月実施）》</p> <p>①十分にできた    ②だいたいできた    ③あまりできなかった    ④全くできなかった</p> <p>1年生… ① 78.7%    ② 20.4%    ③ 0.9%    ④ 0%    ①② 合計… 99.1%</p> <p>2年生… ① 17.5%    ② 64.0%    ③ 18.0%    ④ 0.5%    ①② 合計… 81.5%</p> <p>3年生… ① 25.6%    ② 56.5%    ③ 17.9%    ④ 0.0%    ①② 合計… 82.1%</p>
具体的な取組状況	<p>○個人面接（全学年）：各担任が時期を的確に捉えて実施し、生徒の学校生活を支援するとともに進路目標を明確化するよう促した。○総合的な探究の時間：（1学年）学問研究・職業研究を計画的に進め、主体的な文理選択をサポートした。（全学年）興味関心に応じた探究活動を行った。また随時、外部講師による指導を実施した。○招請講義（1・2学年）：県内外の大学から講師を招聘し、専門的な学問に触れることで志望分野への興味・関心を高めた。</p> <p>○インターンシップ（全学年）：県内の諸団体や大学・医療現場等へのインターンシップへの参加を促した。職業体験としては（1学年）企業連携活動（企業から講師を招き事業紹介）、（2学年）研修旅行での企業訪問、（3学年）看護体験を実施した。○進路講演会・小論文講座・学年集会・HR等（全学年）：校内テストや外部模試の振り返り、学習実態調査での現状把握等をもとに、改善点を考えさせた。○オープンキャンパス参加（1・2・3学年）：具体的な学生生活をイメージし、大学への適応度を確認するために参加を促した。</p>
評価	A：各学年の取り組みの結果、目標は達成された。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生から大学招請講義等に取り組み、80%以上の生徒が肯定的な回答をしているところが素晴らしい。</li> <li>・進路目標の実現には、生徒自身が自己分析や自己認識することが大切であり、個人面談等の重要性を感じる。</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学招請講義」については生徒の要望にできるだけ沿うように、関係機関との連絡を密にする。</li> <li>・学年全体として行う個人面談については時期や内容を十分に検討し、職員間の共通理解を図る。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（学校行事の周知と委員会活動の活性化）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の広報活動を充実させ、各行事の活動内容を学校内外に発信するために、生徒会が中心となり、生徒や教職員との協力・連携を強める。</li> <li>各行事や各種委員会活動への積極的な参加を促すとともに、活動内容を工夫し活性化を図る。</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事では生徒会が中心的な役割を果たし計画・運営をしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が十分に周知されていない部分がある。そこで、広報活動のみならず話し合いの場を積極的に設けることによって、生徒の主体的な活動を学校内外に知らせ、地域と学校、生徒と教職員が連携する活気溢れる行事を運営できるのではないかと考える。また、生徒に責任と自覚を持たせることによって、興味・関心をより高め、主体的な活動に繋がれると考える。</li> <li>生徒会には現在8つの委員会が設置され、執行部が中心となって学校行事や各種委員会の様々な活動を計画・運営している。また、各ホームにおいても役員、各委員が企画する活動があり、主体的に取り組んでいる。しかし、慣例的な活動の中には、あまり関心が高くないように感じられるものもあり、今後、社会の状況に合わせてつちも、より積極的な参加や自主的な行動を促す工夫した取り組みが必要であると考えている。</li> </ul>	
達成目標	①学校行事の定期的な広報活動	②学校行事や生徒会、HR活動に意欲的に取り組み、充足感を得させる。
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒会だより」 毎月発行 学校行事だけでなく、各委員会や生徒会活動の活動報告や告知を分かりやすく記載し、内容を充実させる。</li> <li>掲示板 多くの生徒の目にふれるよう創意工夫を凝らした内容に努める。</li> <li>HPの定期的な更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加意識を高めるために具体的な計画を立て生徒議会や生徒総会を通して生徒主体の形で共通理解を図る。</li> <li>HR活動に話し合いやグループワーク、学年統一活動などを建設的に取り入れ、生徒の自主性を生かした運営を重視し、指導する。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒会だより」「掲示板」は「たまに読む」を含め、4割ほどの生徒が目を通して回答している。 【1学年：39% 2学年：40% 3学年：40%】</li> <li>HPは、行事ごとに適宜更新している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒の割合（*やや積極的を含む） 1年 R5：96% →R6：98% →R7：97.2% 2年 R5：97% →R6：95% →R7：98.6% 3年 R5：97% →R6：96% →R7：97.6% 例年通り全学年で9割を超えてはいる。文化委員、保健委員、校紀委員など、学校行事と直結する委員会の生徒の充実度が高い傾向にある。学校行事は自分を成長させるチャンスと捉え、積極的に取り組む生徒が多い。</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事だけではなく、各部活動の活動結果や生徒会が中心となって行った募金の結果報告等を生徒会だよりだけではなく掲示板を通して適宜行った。（情報の共有）</li> <li>各種委員会では、生徒議会での代議員からの意見や公約を基に委員長を中心に、スマホ使用についての呼びかけ、制服着用ルール、あいさつ運動など様々な活動を実施し、生徒会だよりやHP、生徒玄関前黒板に掲載して周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員による企画、芸術祭の話し合い、スマホの使い方などのテーマが設定された場合に意識的に話し合いが行われている。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>B 自分達の学校の活動という意識を生徒各自にいかにか持たせるかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 学校行事(体育大会・芸術祭準備)に充当される場合が多く、概ね積極的である。</li> </ul>
学校評議員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事は自分を成長させるチャンスと考え、積極的に取り組む生徒が多いことは素敵である。</li> <li>生徒会だよりの発行や掲示板での周知は、生徒の生き生きとした活動が生徒自身や保護者、地域に届き価値がある。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	学校行事(体育大会・芸術祭等)への積極的な取り組みを各種委員会活動にも波及させて、委員レベルでもHRを活性化させたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な読書活動を支援し、豊かな心と感性、知性を育む。</li> <li>「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての図書館機能の充実を図り、生徒が自ら課題を発見し、解決する、探究的な学習活動をしやすい図書館づくりを推し進める。</li> <li>本校生徒の特色を生かすように、計画的に蔵書、資料構成をし、キャリア形成の一助とする。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書傾向調査の結果、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は72%いるものの、1週間の読書時間が0分である生徒が67%であり、その割合は年々増えている。</li> <li>図書館の年間の利用回数は、前年比で5回未満が12ポイント減り、5回以上10回未満が10ポイント増えた。また、10回以上は約12%で微増し、一定数の確保はできているものの、生徒全体の利用状況には個人差がある。</li> <li>図書館を、教室以外の居場所として利用する生徒もいる。</li> <li>*読書傾向調査・・・令和6年度1、2年生を対象に、令和7年1月実施。</li> </ul>	
達成目標	①図書館だより、新着図書案内の発行回数	②1ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数）
	年10回	450人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館だより「Library」や掲示物を年10回程度定期的に発行し、新着図書案内や情報提供を行う。</li> <li>図書委員会が企画、運営する図書館行事により、また、本のポップの作成や展示により、読書の楽しさや図書館の親しみやすさをアピールする。</li> <li>読書センターとしての機能を充実する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1、2年生には、ホームルームの時間を利用して、生徒同士が読書体験を共有する機会を設ける。</li> <li>(1)読書の時間 「社会を知るための読書」をテーマとして、新書を読む。</li> <li>(2)ホームルーム読書会（ビブリオバトル） 生徒同士で本の魅力を伝え合い、読書体験を共有する。</li> <li>(3)校内読書感想文、感想画コンクール 入賞作品を図書館誌に掲載し、鑑賞する。 3年生には、小論文や面接対策などの図書資料を案内し、進路支援を図る。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生には、図書館オリエンテーションを設け、本の探し方や利用の方法を周知し、親しみやすい図書館であることを体感させる。</li> <li>新着図書や授業に関連する資料が目に残るように展示したり、配架を工夫したりして、利用しやすく、居心地のよい環境を整える。</li> <li>学習センター、情報センターとしての機能の充実を模索する。</li> <li>(1)蔵書の選定と資料収集、レファレンスサービスを充実させ、生徒の主体的な読書や探究学習等の活動を支援する。</li> <li>(2)進路や職業選択に役立つ図書資料の充実に努める。</li> <li>(3)教科、学年、分掌、部活動など、教員も利用しやすい図書館づくりを進める。</li> <li>(4)新聞、雑誌、視聴覚資料にも幅広く触れる機会を提供する。</li> <li>(5)音楽等芸術関係の資料提供と利用促進に努める。</li> <li>(6)Wi-Fi環境下で、ICTを活用した学習活動の利便性を高める。</li> </ul>
達成度	① 図書館だより11回、新着図書案内10回(見込み)	② 349人(12月末時点)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>月刊図書館だよりや新着図書案内、図書館前の掲示物等で、図書委員や教職員によるおすすめの本を紹介し、本への親しみやすさを感じられるように取り組んだ。</li> <li>1、2年生は「社会を知る」をテーマに、幅広い分野から選定した指定推薦図書（新書約50冊）から各自が本を選択し、選んだ本を読む「読書の時間」を設定した。3学期ホームルームでは、図書委員の運営でビブリオバトルに取り組んでいる。生徒間でおすすめの本をプレゼンし合い、読書体験を分かち合う場となっている。2月発行の図書館誌「わかば」に、図書委員会の各行事の活動報告や読書感想文・感想画等を紹介した。</li> <li>毎年読書傾向調査により、本校生の読書傾向の把握に努め、効果的な読書指導と図書館経営に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月、新入生オリエンテーションでは、図書館の利用の仕方をガイダンスし、安心して利用できる雰囲気を感じさせている。</li> <li>7月、図書委員会主催の教養講座では、日ごろ接することの少ない話題をテーマに解説や資料を見聞きし、新しい視点を持つことができた。館内には関連図書を紹介し、講座の内容をより深められるようにしている。</li> <li>10月、全国読書週間にあわせて催す「図書館フェア」では、図書委員による探究的な活動の発表展示やクイズラリーなど、楽しい図書館を発信している。</li> <li>芸術や進路の資料や専門図書をはじめ、生徒と教職員のニーズに応じた蔵書の充実を計画的に進めている。図書委員は店頭選書を通して、配架やポップの利用方法を見聞し、魅力的な図書館づくりの参考にしている。</li> </ul>
評 価	<p>① A：定期的な情報発信により図書館の広報活動に取り組むことができた。</p> <p>② B：入館者数のカウントの仕方を変更したため目標数を達成できなかったが、本の貸出冊数は昨年度に比べ160冊増加した。</p>	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館を単なる静かに本を読む場所で留まらず、自発的な探究の拠点として、さらに進化させてほしい。</li> <li>本に接することで、自分を成長させる機会であることを再認識する場面を増やすことが重要である。図書館でのICTを活用した教科や探究活動の授業のあり方について、さらに模索してほしい。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科や探究的な活動の展開に資する図書館機能の充実を図る。</li> <li>先進的な事例を参考にしつつ、本校生徒の実態に即応して生徒の読書活動推進の取組みを継続する。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	学校生活その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化・快適な学習環境の保持）												
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに地域の声を聞き開かれた学校づくりに努める。</li> <li>校内美化に取り組み、健康的で快適な学習環境を保つことで生徒の学習や学校生活に対するモチベーションを向上させる。また、学校全体で協力して清掃活動に取り組み、生徒同士の助け合いや協働の精神を持たせる。</li> <li>悩みを抱える生徒に対し、多面的に支援する。</li> </ul>												
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPTA懇談会は年2回開催しており、呉高芸術祭の食堂運営、生徒の生活実態等について、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う有意義な機会となっている。</li> <li>ホームページへの学校行事の掲載率は9割以上だが、保護者や中学生、地域の方から、迅速で幅広い生徒の活動の掲載を望む声が聞かれる。</li> <li>主体的に清掃に取り組む意識が薄く、教員による指導を必要としている。</li> <li>悩みを抱える生徒が多様化し、学年や学校だけでは対応が難しい事案も発生している。</li> </ul>												
達成目標	①PTA行事等への出席率及び保護者の満足度の向上。	②幅広い生徒の活動や学校行事等のHPへの掲載を、概ね2週間以内に行い、タイムリーな広報に努める。	③年9回の大掃除を利用し、美化委員が中心となり重点目標を定め生徒全員が主体的に環境美化に努めるようにする。										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の出席率30%以上</li> <li>満足度調査で4以上（5段階評価）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲載する学校行事の内容が確実に伝わるようHPに掲載する。</li> <li>学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な特別支援委員会を開催し、校内・校外連携を強化することで多面的に生徒を支援する。</li> <li>各クラスの大掃除チェックシートの評価を3（ほぼできた）以上とする。</li> <li>定期的な生徒の情報共有とカウンセラーとの連携の機会を設ける。</li> </ul>										
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動のパンフレットやホームページ等を通して各行事の様子を知らせ、保護者の参加意欲を促す。</li> <li>参加した保護者を対象にアンケートを実施し、満足度を調査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等の内容が確実に伝わるようHPに掲載する。</li> <li>学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内外の美化活動を推進するため美化委員がポスターや放送による啓発活動やブロック清掃を行う。</li> <li>毎回、大掃除の重点項目を確認しながら美化委員によるチェックシートを使った評価をする。</li> <li>学年やカウンセラーと連携し、適切な時期に生徒の支援を行う。</li> </ul>										
達成度	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>満足度(出席率)</td> </tr> <tr> <td>・PTA総会</td> <td>3.6 (33.2%)</td> </tr> <tr> <td>・PTA講演会</td> <td>4.4 (18.6%)</td> </tr> <tr> <td>・芸術祭</td> <td>4.5 (96.2%)</td> </tr> <tr> <td>・三陵編集委員会</td> <td>4.7 (80.9%)</td> </tr> </table>		満足度(出席率)	・PTA総会	3.6 (33.2%)	・PTA講演会	4.4 (18.6%)	・芸術祭	4.5 (96.2%)	・三陵編集委員会	4.7 (80.9%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲載した学校行事等 53</li> <li>掲載を予定していた学校行事の掲載率 94.4%</li> <li>概ね2週間以内の更新率 81.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期3回、2学期3回、重点項目を決めて大掃除を実施し、チェックシートでの評価が4点満点中平均4.0であった。</li> <li>適切な時期に生徒の情報共有と支援を外部と連携しながら行った。</li> </ul>
	満足度(出席率)												
・PTA総会	3.6 (33.2%)												
・PTA講演会	4.4 (18.6%)												
・芸術祭	4.5 (96.2%)												
・三陵編集委員会	4.7 (80.9%)												
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の出欠集計や実施において学年と協力した。</li> <li>PTA講演会の案内状に演題の副題と講師の詳しいプロフィールを載せることで、あらかじめ講演内容をわかりやすくした。</li> <li>芸術祭や三陵編集委員会に役員が積極的に参加し、模擬店芸術祭の振興・創出やPTA会報編集に尽力された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事については、職員会議で写真撮影と記事作成を依頼した。</li> <li>年度当初の予定にかかわらず、行事の告知や結果については随時掲載した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に教室のスクーンの清掃をした。</li> <li>大掃除において、美化委員が重点目標を設定し、放送による啓発活動やチェックシートを利用した大掃除の評価を行った。</li> <li>適切な時期に生徒の支援について特別支援委員会にて情報共有を行った。また、必要に応じて外部との連携も行った。</li> </ul>										
評価	B	B	A										
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児が高校生とふれあう機会がありうれしい。保育所のクリスマスコンサートでの管弦楽部の演奏によって、生の楽器、音色に親しむことができ園児もバイオリンなどの楽器などに興味を持つようになった。</li> <li>満足度調査において、PTA行事、芸術祭等の満足度が概ね目標達成できており、評価や改善などのフィードバックもできていることが分かった。</li> </ul>												
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も学校行事や生徒の活動をホームページに掲載していきたい。</li> <li>清掃活動については、生徒達の美化意識を啓発させるような美化委員の活動を工夫する。</li> <li>学校の支援が必要な生徒に対しては、来年度も適宜、特別支援委員会を開催する。</li> </ul>												

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)